

ふれあい雪谷

平成20年

あさがお号

母校の思い出 33 池雪小開校130周年によせて

小学校を卒業してから50年以上が過ぎてしまいました。池雪小開校130周年おめでとうございます。早いもので私がPTAで110周年と120周年行事にかかわって、もう10年も20年も過ぎたことに改めてびっくりしています。その節には大勢の方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

小学校の思い出は、一クラス63～4人、6学級のまさに団塊の世代でした。教室は机で全部埋まってしまう、まさに詰め込み、すし詰め教室でした。

脱脂粉乳とパンの給食が懐かしく思い出されます。コロッケ中毒事件とアドバルーン爆発があり、まだラジオの時代でしたがニュースで報道されたこともありました。

今では校庭にカラフルな人文字を描いた航空写真をよく見ますが、5年生の時に80周年の記念式典がありましたときに、私たちも人文字を描きました。保護者の中に新聞社の関係の方がいらしく、南極観測船宗谷の出港の取材のあとに、学校上空まで飛んできて空から写真を撮ることになりました。下書きもせずに「ちせつ80」と並びましたので、ゆがんだ形になっています。

飛行機かヘリコプターか忘れてしまいましたが、学校の上空を何度も旋回して、体を動かさないようにジッとして緊張していたのを覚えています。撮影のあとは、解放感とうれしさで、みんなで飛行機に向かって、思いっきり校庭を走り回った、楽しくうれしかった80周年の思い出です。



(上池上 海老澤 信吉)

「編集後記」

新緑の季節も終わり、はや暑い夏がやってきます。国内外とも、なかなか平穏とはいかないようですが、我々世界人類熱望の「早く地球に平和を」となって欲しいものです。今年の夏は北京オリンピックも開催されます。日本選手の活躍を期待します。私達編集委員も、より良い、より親しまれる地域情報紙を目指して努力しております。皆様の身近な情報・ご意見をお寄せ下さい。(小池 山下 雅三)

【発行】 わがまち大田雪谷地区推進委員会
【編集】 ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷三六二
電話三七二九一五二七
通巻第七十一号

七月一日から、ふれあい雪谷の編集委員が替わりました。
東中自治会
(新)南 健治郎 (旧)直井 稔枝

サークル紹介40

自彊術 わかくさの会



皆さんは 自彊術を知っていますか？中国の按摩と指圧を元に、大正五年に中井房五郎の手によって作られた健康体操です。三十一の動作があり(自彊術は一動二動といいます)、体の全部の関節を使い、六方に体を動かし、呼吸法を使い、極限まで動かします。今は長寿の時代、元気で長生きPK(ピンピンコロリ)です。自彊術と巡り合って、健康のありがたさを痛感しています。自彊術の特徴は①独特の呼吸法②全身性・極限性③消費エネルギーが少ない④手技療法がある。その真髄は①皮肉を動かし②筋骨を動かし③関節を動かす。一言で言うならば「自他共に適度に圧を加えて、全身を動かす運動」

老若男女に限らず、雨の日でも、家の中でも、畳一枚あればできます。皆さんも一緒にどうですか？和を大切に、楽しくをモットーに、月曜日の午前中、石川町文化センターでやってます。何時でも覗いてみてください。

(石川台 E・J)

「私の健康法31」 「健康法」と言われても

5年前、ある会場で偶然お会いした知人が、階段を降りていく私を見て不意に「何か健康法でもあるのですか」と尋ねました。私は直ぐにこれといって話すこともなく「能天気なものですから」と答えた覚えがあります。

顧みれば、昭和2年に雪ヶ谷町に生まれ、洗足池界隈の自然環境に馴染み、終戦まもなく家業を再開しました。当時は運搬具といえば重い実用自転車が幅をきかせ、その後、徐々にバイク等に変わりはしましたが、結構体を動かすことが多く、痩身ではありましたが殆ど病気もせずに今日に至りました。

その間、禁煙に2、3年は要しましたが、はや十数年経過し、また、禁酒とはいきませんが、血液の循環によいと、日本酒か缶ビール1本を嗜む程度が良薬と考えています。運動といえば、漠然とウォーキングに挑戦しても、無精者には毎日続かず、最近では古傷が痛むので、専ら軽快車で用達がてら遠乗りもし、坂道も足腰強化の為、体調にもよるが、下車しないでがんばっています。

今後も、ストレスも公害もない自転車を気楽に活用していきます。

(笹丸 竹下 文男)

ホームページ

<http://www.city.ota.tokyo.jp/nishi/yukigaya/index.htm>

小池 C・Yさんの作品

夏のつどい “海であそぼう”



小学生のみなさん、もうすぐ夏休みです。

長期の休暇は体や心を鍛える大変よい機会です。ご家族でもいろいろ計画があることでしょうが、宿題などはなるべく早くすませて、8月24・25日の大田区青少年対策雪谷地区委員会が主催する行事に参加してみませんか。対象者は小学4年生からです。

学校で、学年別に遠足や社会見学に行くのとは違って、高校生、中学生の方々と一緒に“夏のつどい”千葉県立鴨川青年の家で一泊を過ごすのも夏休みの良い思い出になると思います。盛りだくさんの楽しい2日間を計画しています。

地域の青少対の大人の方たちが一緒に行き、お世話をします。安心して申し込んでください。

詳細は各学校にチラシを配布し、お知らせいたします。申し込みは7月6～9日に雪谷特別出張所で行います。

(東中 直井 穂枝)



新築移転した雪谷特別出張所の壁面を活用して、5月1日から、わがまちのギャラリーがオープンしました。私はこの募集記事を区報で見つけ早速応募。幸いなことに第一回目のスタートをきらせていただきました。

地域の方々の目に触れる場に誕生したことは、とても素敵なことだと大歓迎です。特に忙しい方達には、遠方まで足を運ぶのは無理でも、家事や介護の合間に、何か手続きのついでに立ち寄り、見られる距離にあるなんて最高です。

今回4点出品しましたが、書が2点(報恩感謝ノ土と水に加勢されて)刻字が2点(坂村眞民の詩 念すれば花開くノウィリアム・ブレイクの詩 無垢の予兆)でした。

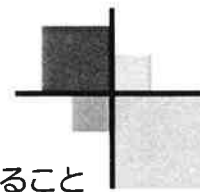
公共施設の一隅を照らす、積極的に踏み込んだ行政側の計らいを受け、ささやかながら地域文化のお力になれるという実感は、誇らしくもあり嬉しい経験でした。

ちょっとアートの気分を気軽に味わえる、ホットな文化発信のギャラリーとして、未永く定着していったほしいものと願っています。

潤いある、わがまち雪谷の自慢の一つに成長していきますようこれから展開を楽しみにしています。(池の台 柏 三八子)

区民ギャラリーの誕生を祝って

美しい環境づくり 27 水辺の宝石・カワセミ



最近、よくカワセミという言葉を目にすることがあります。「川の宝石」とか「飛ぶ宝石」と言われる程のとても美しい鳥です。頭の部分は瑠璃色に輝き、首の付け根は白で腹の部分は黄土色、翼は光沢のある緑色で口ばしは長く色は黒、足は赤で、背から尾にかけてコバルトブルーに輝いています。大きさはスズメと殆ど変わらず、小魚の生息する水辺に住んでいます。

記録によると明治の中頃までは街中でも、カワセミの飛んでいる姿が見かけられたそうです。それほど自然豊かな東京でしたが、戦後の経済復興と共に川や池などの水辺環境の悪化で、生息地も都心から郊外へと退行していききました。警戒心の強いカワセミにとっては営巣する環境になかったと推測されます。

ここ数年前から都内の数箇所の河川や公園にカワセミが帰ってきました。各自治体に移り変わる東京の中で少なからず、自然保護を守っている成果だと思われます。

昨年、東雪谷四丁目と上池台の住宅が立ち並ぶ間に流れている洗足流れに、2羽のカワセミの雛がしばらく生息していました。大変驚くほどの光景で、住宅地の真中で営巣した話は聞いたことがありません。上池台・東雪谷に住む方々の環境を大切にしている賜物だと思います。



東雪 K・F (カメラマン)

‘リレー随筆’



「桜並木よもう一度」 みんなで協力コツコツと！

明治44年(西暦1911年)、当時の東京市長尾崎号堂がアメリカ合衆国に贈った数千本のサトザクラは、今でもワシントンのポトマック河畔で咲き続け、その後、ヨーロッパ各国、南米、近年では中国へも贈られ、世界各地で毎年美しい花を咲かせ、国際親善の役割を果たしております。

日本の桜は、万葉の昔から春の一日を楽しむ風習があり、江戸時代も上野・向島・隅田川堤の花見は有名だったようです。現在は繁殖技術も進み、100を超える種類があるようです。

雪谷は東京湾に面してオゾンが最も多く、空気がきれいで、冬の温度も北西部にくらべると平均4度も高く、東京一の健康の地と衛生試験所も発表しております。

東西に曲がりくねり、水害の多かった呑川も、直線的な改修護岸工事により解決されました。しかし、昔池上本門寺まであった桜のトンネルは復活しておりません。

今後の雪谷の発展のためにも、現在の危険と背中合せの時代こそ、穏やかな人の心を盛り上げる花の力を活用すべきです。

花と植樹による思い出は、子供さんの成人後まで残ります。近隣の商店街にもよい影響が出てくると思います。

現在の桜の種類	開花期	花色
早咲きカンザクラ系	3月中旬～下旬	
ヒガンザクラ系	3月下旬～4月下旬	紅色、淡紅色
フジザクラ系	3月下旬～4月下旬	淡紅色
サトザクラ系	種類多い 代表染井吉野	
ヤマザクラ系	3月下旬～4月下旬	白色または淡紅色
自生種(原種)	3月下旬～4月下旬	代表オオシマザクラ白色

桜の種類(NHK「趣味の園芸」より抜粋)

(南雪谷 三上 一)

季節の俳句	
五月晴れ 朝の牛乳ぐいと飲む	更衣(ころもがえ) 己れに向けて心替え
石段を 上り眺める紫陽花を (東中 南 健治郎)	友とゆく 飛鳥の小径七変化 (上池上 太田 美重子)
絵筆とり 迷いて楽し夏の色 (上池上 千葉 信子)	